

令和 8 年野中廃寺史跡指定記念シンポジウムの質問と回答

●国分寺・国分尼寺について

Q 1. 土佐国では「国分尼寺」の遺構が確認されないことから、建立されなかったとか「比江廃寺跡」が中世の「アマシャ」小字から尼寺に転用されたのではとの説がありました。『南国市史』 野中廃寺はかつて「国分尼寺」ではないかと言われ今は否定されていますが、その可能性は全く無いのでしょうか？

A：基本的に国分寺・国分尼寺は 741 年の国分寺建立の詔を受けて新設することから、土佐で今のところ国分尼寺としての条件に合致するものはありません。

Q 2. 国分寺は全国で全て残っていますか？国分尼寺はどうですか？

A：国分寺は全国的に場所が分かっているところが多いですが、国分尼寺はまだ見つかっていないところも多いです。

Q 3. 土佐の国分尼寺はどこですか？

土佐の場合も国分尼寺はまだ分かっていません。

Q 4. 土佐国分寺のある地は、現在ではどちらかということからはずれた辺りな位置にあるように思いますが、創建時は国家の政治、技術、経済、文化、学問等の中心的役割を果たしたという理解でまちがいないですか？立地は自然災害の少ないところに立地していると考えられますか？

A：土佐国分寺や土佐国衙跡のある地は地盤も安定しており、古代には土佐の政治・文化の中心として栄えていました。

●野中廃寺について

Q 5. 野中廃寺は、国策ということではなく、地方の有力者が国分寺造営の影響を受け、仏教信仰のために造営したと考えられるということでもいいのでしょうか。そのことが当時の地方社会の状況を示しているということでしょうか。

A：地方の有力者が国分寺造営の影響を受け、仏教信仰のために造営したということでおおむねいいと思います。野中廃寺を建立した有力者の名前はわかりませんが、野中廃寺周辺の複数の有力者（長岡郡の役人ら）が、建設したと思います。当時、土佐国でも伝染病や干ばつなどで疲弊していた状況があり、仏教の力で安寧を願ったものと考えられます。

Q 6. 野中廃寺という名前はどのようにわかったのですか。

A：野中という地名は明治以降の地名で当時の地名はわかりません。

野中地区にある名前の分からない寺跡ということで、野中廃寺と呼ばれています。

Q 7. 国分寺と野中廃寺の間に住んでいる方で、金堂さんという名前の方がいますが、何か由来がわかりますか。

A：苗字については由来や関係についてはわかりませんが、野中廃寺の地名には鐘楼堂という寺関係の呼び名が残っていたりします。

Q 8. 国分寺、野中廃寺、同時期に作られた作業に何人の人数が必要であったか？当時そんな人口がいたのか？

A：奈良時代中頃、日本の人口は 500 万人程度、土佐国で人口 6 万人程度かと推定されています。作業にあたった人数は不明ですが、土佐国内の多くの農民が駆り出されて作業にあたりました。

Q 9. 土佐国分寺と野中廃寺の位置が正確な南北であることから、方位を正しく測量する技術が 8 世紀に確立していたことを物語っていると思います。それなら、両寺院の伽藍配置が近い方位に揃えている理由は何だったのでしょうか。

A：両寺院の伽藍配置の軸がとっている方位が何を基準としたものかはまだ分かっていませんが同じような軸を採用していることに両寺院の関係性の深さが伺えます。

Q10. 野中廃寺はとても大きなお寺であったと思いますが、いつ、なぜ廃寺になったのでしょうか。

A：古代の氏寺は律令制の崩壊とともに廃れていく傾向があり、野中廃寺も同じように 9 世紀後半頃に廃絶したと考えられます。

Q11. 野中廃寺の宗派は何なのか。

A：現在のような宗派はなく、建設した有力者たちが現世利益を願い、祖先の追善供養を行い、鎮護国家のための法会や祈祷などが行われていました。

Q12. 1991 年の中門の発掘調査は丹念にされていないのか？

A：当時としてはきちんとした調査をしており、その資料を丹念に分析したことにより現在の成果につながっています。

Q13. 野中廃寺に祀られていた仏像はどんな物だったのか。それが残っている実例は有るのか？

A：野中廃寺に置かれていた仏像はどんなものか分かりません。奈良時代に作られて、現在まで伝承している仏像は全国的にあります。

●有力者（郡司）について

Q14. 8 世紀当時の南国市近辺の（野中廃寺を建立した）有力者についてわかっている事を教えて下さい。

野中廃寺を造った郡司は誰かわかりますか？

A：野中廃寺を造った郡司（有力者）の名前は分かりません。

●瓦について

Q15. 復元模型の例では瓦がグレーでしたが、いぶし瓦でしょうか？

野中廃寺の瓦が茶色なのは、表面が風化したのでしょうか？

A：いぶし瓦ではなく、瓦が焼かれた窯の温度などで瓦の色が変わることがあります。野中廃寺の瓦が橙色や黄色なのはその窯跡の特徴です。

Q16. 瓦以外に秦泉寺廃寺との関係はないですか。

A：瓦に共通のものがあることから、何らかの関係があったと考えられます。また、国分寺の法会などには両寺の僧侶も参加したと考えられます。

Q17. 土佐山田と介良の2ヶ所の窯跡は、現地へ行けばわかりますか？

A：2ヶ所とも現地には特に窯跡の痕跡も残っておらず、特に表示也没有ありません。

Q18. 瓦の編年が同形式でも地方では畿内より50年ほど遅く比定されるといったことはあるのでしょうか。

A：かつて都より地方の瓦は同じ文様でも遅れると見る意見もありましたが、現在は大きな時期の違いはないと考えられています。ただし、地方では都と違い、古い文様が長く遅くまで用いられることもあります。例えば、土佐国分寺の重弧文の軒平瓦（弧線が三重などに引かれた文様）など。

Q19. 野中廃寺の瓦には、コビキ AorB の分類はできていますか？また、県下はどちらが多いのでしょうか？

A：コビキBの分類は戦国時代末期の瓦作りで出現する技法ですので、野中廃寺にはまだありません。

●寺院の技術とその伝播等

Q20. 全国に野中廃寺のような国分寺と同時期に創建した寺院の件数はどれ位ありますか。又その名前と場所を教えてください。

A：国分寺と同時期に創建した氏寺の件数は分かりませんが、寺内廃寺（埼玉県熊谷市）、十三宝塚遺跡（群馬県伊勢崎市）などの例があります。

Q21. 法起寺式は九州など地方に多い形式とされますが畿内より九州などとの関連が考えられるのではないのでしょうか。

A：法起寺式の伽藍配置は全国的に氏寺などに採用されており、地域的な偏りはありません。

Q22. 奈良時代より神仏習合が主流になる中、各地の寺と神社は神宮寺、別当などで関係を結んできました。今回発掘された野中廃寺にも関係した神社はあったのでしょうか？

A：古代日本では、神と仏は関わりが深いことがわかっていますが、野中廃寺に関する神社は不明です。

Q23. 白鳳時代から奈良時代、乙巳の変から大化の改新を経て、大和朝廷の激動時代、宮都も次々と変わっていく時代に、都からの距離がある土佐にもその影響があったことがうかがえますが、距離や地形のへだたりを超えてどうやってこの地に都の支配や文化の影響を伝えたのでしょうか？

A：大化の改新を契機に中央集権国家の仕組みづくりが本格的に始まり、地方にも役所などが整備されていきます。土佐に古代寺院が作られるようになるのも、四国の周辺地域から瓦作りなどの技術が伝播してきたからと考えられます。

Q24. 古代寺院が現存しているのは奈良県だけの様ですが、衰退した理由は？

A：古代の現存する寺院建築は奈良県に多いですが、各地方にも残されている例があります。また、土佐国分寺は奈良時代に創建以来、現在まで役割は変わりながら再建され存続しています。

Q25. 古代寺院の配置関係。各寺院にて塔の高さは違うのか、又、寺を建てる大工（工人）は、各地域に居たのかどうか。

A：伽藍配置や塔の高さなどは寺院によって異なっていたと考えられます。寺を建てる大工は、技術を持った人を呼んで建築していたと思われます。

●保存活用について

Q26. 野中廃寺を将来どの様な形で残してゆき子供たちに伝えてゆくか？

A：史跡としての価値を発信しつつ、地域住民の憩いの場としても活用することを目指していきたいと考えています。